

県直営による公の施設の管理運営状況

施設の名称	群馬県立歴史博物館
所在地	高崎市綿貫町992-1
所管部局・課	生活文化スポーツ部 文化振興課

1 施設の設置根拠(法律、条例等)

社会教育法、博物館法、群馬県立歴史博物館の設置及び管理に関する条例

2 施設の役割

<p>(1) 設置目的 群馬県の歴史の変遷と発展に関する資料を収集・保管・展示し、県民の利用に供することを通じて、県民の教養を高め、かつ群馬県の歴史と文化を調査・研究・学習するあらゆる人のために資する様々な事業を行うことで、本県の教育、学術及び文化の発展に寄与する。</p> <p>(2) 設置当初の状況 昭和54年10月に社会教育施設として設置した。</p> <p>(3)施設を取り巻く現状 常設展・企画展・テーマ展示等の展示と小学生を中心とする子供たちに対する体験学習を二本柱として実施している。 本施設は、県立都市公園「群馬の森」内に位置し、県立近代美術館と隣接しており、公園全体として、本県を代表する文化・芸術エリアを形成するとともに、広く県民の憩いの場となっている。 大規模改修工事(平成26年10月～平成28年6月)を経て、平成28年7月にリニューアルオープン、翌29年7月にグランドオープンした。</p>

3 施設の概要

設置年月日	昭和54年10月1日(開館10月21日)
敷地面積(所有者)	11,800平方メートル(群馬県)
主な施設(床面積、階数等)	延べ床面積 7,819.79平方メートル、地上3階、地下1階建
建設費	2,066,640千円
備考	平成21～22年度子どもにやさしい歴史博物館整備事業(2億円)

◇入園料・利用料等 (円) ◇利用時間(休館日)

区分	金額	
一般	300、団体240	9:30～17:00(入館は16:30まで) 月曜休館(祝日の場合はその翌日) 年末年始
大学生・高校生	150、団体120	
中学生以下	無料	
障害者・介護者	無料	

4 施設における実施事業

- ・展示
常設展示、企画展示、テーマ展示、特別収蔵品展
- ・教育普及事業
企画展関連…ギャラリートーク、講演会、ハンズオン、企画展のテーマに関連したワークショップの開催
博物館講座…館長講座、学芸員等による講座、県内外の気鋭の研究者による講座
学校対応……ワークブックを活用した展示学習、火おこしなどの体験学習
生涯学習……歴史・文化をテーマにしたワークショップの開催
- ・資料収集管理及び調査研究

5 管理運営コストの状況

(千円)

区 分	30年度(当初予算額)	29年度(決算額)	28年度(決算額)	27年度(決算額)	26年度(決算額)
歳 入 (1)	28,407	14,194	4,797	88	1,716
国庫支出金	463	0	0	0	0
使用料	15,133	11,688	3,991	0	1,428
雑入(文化振興課)	12,811	2,506	806	88	288
歳 出 (2)	263,184	268,634	353,624	195,856	242,735
常勤職員	123,118	124,471	125,896	124,116	131,872
非常勤職員	27,686	27,400	26,308	7,069	13,819
管理運営費	53,703	50,824	128,543	54,234	85,607
事業費	58,677	65,939	72,877	10,437	11,437
歳入・歳出の差額(1)-(2)	▲ 234,777	▲ 254,440	▲ 348,827	▲ 195,768	▲ 241,019
歳入・歳出の主な増減理由	・H27年度は改修工事のための休館中であり、歳入、歳出減。 ・H28年度は資料等の帰還作業にかかる管理運営費、プレオープンに伴う嘱託職員経費及び事業費について歳出増。 ・H29年度は7月にグランドオープンし、9/30から企画展を再開したため歳入増。				

6 職員の状況(各年度4月1日現在)

(人)

	30年度	29年度	28年度	27年度	26年度
常勤職員	14	15	15	15	16
非常勤職員	14	12	12	4	4
合 計	28	27	27	19	20

7 施設利用の状況

区 分	30年度※	29年度	28年度	27年度	26年度
年間利用者総数(人)	100,000	79,200	76,581	13,258	42,335
有料利用者数(人)	40,000	30,672	21,132	0	23,091
無料利用者数(人)	60,000	48,528	55,449	13,258	19,244
目標利用者数(人)	100,000	90,000	80,000	—	39,000
施設稼働率(%)	72.6%	51.8%	54.0%	—	38.4%
稼働率対象施設(設備)	博物館				
利用者の主な増減理由	平成26年10月から28年7月まで改修工事のため休館 平成28年3月から平成29年7月まで改修工事のため休館				

※ 見込数又は途中実績を記入

8 必要性及び管理運営方法についての方向性

区分	検討結果・理由等
施設の必要性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県の施設としてこのまま存続 <input type="checkbox"/> 県の施設として事業規模等を縮小して存続 <input type="checkbox"/> 市町村に移管・譲渡 <input type="checkbox"/> 民営化・民間譲渡 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 当館は、公共施設のあり方検討委員会において、「本県の歴史文化に係る研究・社会教育の中心施設として、数多くの県民に利用されており、その設置目的は、今日においても失われておらず、教育的効果も高い施設と考える。本施設の今後のあり方としては、継続とすべきである」との答申を受けている。 </p> <p> その後当館は、大規模改修工事を経て、平成28年7月にリニューアルオープン。その後、文化庁の室内環境調査や指導を経て、国指定重要文化財の展示を再開し、平成29年7月にグランドオープンし、国宝や重要文化財の展示を行っており、文化財や歴史の魅力を県民に発信している。 </p> <p> また、国指定史跡「綿貫観音山古墳」の出土品(国指定重要文化財)を展示している「東国古墳文化展示室」や通史展示を活用し、東国文化をはじめ、群馬の歴史文化を県内外に積極的に発信し、各地に残る歴史文化遺産へと誘う役割を担っている。 </p> <p> さらに、子どもたちが東国文化をはじめ群馬のすばらしい歴史を学び、自分たちが生まれ育った故郷への愛着と誇りを育むため、展示学習やワークショップ等の教育普及活動を行っている。 </p> <p> 当館は、県民が本県の歴史文化のなりたちを正しく理解し、未来を展望するのに役立つ研究・展示・教育普及活動を総合的に行う博物館として存在意義があると考えます。 </p>
指定管理者制度	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 県直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入 <input type="checkbox"/> その他 </p> <p> 博物館の管理運営については、総合的な歴史博物館としての根幹である学芸業務(調査・研究、学術判断をもった資料収集、展示、適正な収蔵品保管)及び教育普及業務(児童生徒への教育的観点からの展示学習指導等)と管理運営は密接に連携しており、全体的に高い専門性が要求され、そういった職員を育成し、維持していくなど人材育成が極めて重要である。指定管理となった場合それを維持することが困難になることが危惧される。 </p> <p> 展示のために国宝や重要文化財を借用する際には、借用先から当館への信頼性がないとなりたらず、県が直接運営する博物館への信頼性は、他に替えられないと考えられる。 </p>
業務等の見直し	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの検討が必要なものがある <input type="checkbox"/> 当面見直しの必要はない </p> <p> 大規模改修工事を契機に、当館は従前とは全く新しく生まれ変わった意識を持ち、新たに策定した「博物館の使命と事業方針」に基づき、事業展開を行っている。 </p> <p> 重要な県政課題である東国文化の情報発信拠点としての機能を高めるため、東国古墳文化展示室において、国指定史跡「綿貫観音山古墳」の出土品(国指定重要文化財)の展示を行っている。 </p> <p> また、通史展示室のコンセプトを明確化し、「群馬の風土・自然と人びとの暮らし」「群馬の生活・生産技術と人びとの交流」「群馬のなりたちと人びとのつながり」の3つのテーマに基づき、模型や映像を使って子どもから大人までわかりやすく群馬の歴史・文化を紹介することとした。 </p> <p> 当館の10万点に及ぶ収蔵資料を活用し、タイムリーでフレキシブルなテーマ展示も実施することとした。あわせて、群馬の歴史文化の価値と魅力を発信するため、また、展示への集客を促進するため、ホームページでの情報発信やメディアを活用した広報宣伝に力を入れているところである。 </p> <p> 子どもたちが理解しやすいよう注目点をまとめたワークブックを活用した学習対応や、企画展に関連したワークショップを開催しているが、一般ボランティアや、高校生ボランティアを組織して児童生徒へのワークショップ対応を行うなど、協力をしてもらっている。 </p> <p> 県内小中学校の歴史学習の利用促進のため、学校向けの利用案内や企画展示の案内を県内小中学校に配布するとともに、教育課程に合わせたワークブックを作成、また、教育委員会事務局との連携強化を図るべく、社会科教員の連絡会に出席するなど、コネクションづくりを行っている。 </p> <p> 限られた予算及び人員で、県民ニーズに応えられる事業展開を図るため、県内外の他館の事例も参照しながら、コストダウンや効率的な事業展開のための方策を探っていく必要がある。 </p>